

新型コロナウイルス感染症対策における寄宿舎の対応について

～令和2年2月から12月までの記録～

寄宿舎

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、緊急事態宣言を受け本校は令和2年2月27日から5月31日まで休校となった。6月の開舎、そして開舎後から2学期終了に至るまでとコロナ対策や舎生への配慮などの取り組みをまとめることにした。コロナ感染症の終息がいつになるか不透明ではあるが、緊急事態に関する対応の一つとして今回の取り組みを通して課題や改善点を考慮しながら今後に繋げたいと考えている。

キー・ワード：新型コロナウイルス感染症 健康管理 緊急帰省 開舎時の配慮 消毒作業 寄宿舎行事

1 はじめに

寄宿舎では40名前後の舎生が生活している。

2009年（平成21年）新型インフルエンザ発生の際の緊急帰省を参考に、2月27日に緊急帰省の対応を行った。

寄宿舎は集団生活なので、感染するリスクはとてつもなく高い。寄宿舎では6月1日からの学校再開に向けて、5月31日までの休校期間中は新型コロナウイルス感染症から舎生を守るために、どのようなことに気を付けたらよいか、準備なども含めて検討を行った。その後も12月に至るまで、試行錯誤を重ねながら進めた。

2 休校をうけて

寄宿舎では緊急帰省となった場合に備えて以下のことを行っている。

① 保護者のメールアドレスの登録

保護者に緊急時の一斉連絡のために、入舎時に保護者のメールアドレスを確認、寄宿舎の携帯電話に登録している。学年別にグループ分けし、緊急時には一斉メールを送信することになっている。

② 緊急帰省費

学級閉鎖や休校などで緊急に帰省することが決まった場合のために、入舎時に「一斉帰省のための事前確認」(Fig. 1)を提出してもらっている。帰省費として保護者より片道分の交通費を預かり、舎生の緊急帰省に対応できるようにしている。

③ 帰省届

5月連休や長期休業で帰省する時は、舎生があらかじめ自分の携帯番号、メールアドレスと、どの経路で帰省するか時間・ルートを書いたものを提出している。保護者にも連絡し、共通認識を行うことで帰省途中の不測の状況に対応できるようにしている。

Fig. 1 一斉帰省のための事前確認

(1) 休校前日（2月26日）

22時10分 寮務主任より、市川市における幼・小・中学校等の臨時休校措置に伴い、本校も休校が決まった。それに伴い、舎生は翌日27日に一斉帰省をすることの報告を受けた。

寮務主任と当番職員（舎監・寄宿舍指導員・補助指導員の3名）で今後の対応について確認を行った。その際、2009年度に作成した新型インフルエンザの対応、休校（閉舎）の場合（Table 2）を参考にした。

22時17分 メールメイトで休校について配信された。男子寮は舎監、女子寮は指導員が、帰省届を配布しながら、一人ひとりに状況を説明して回り、以下の内容を伝えた。

明日は登校しないこと。
朝食後はなるべく早い時間に出舎すること。
保護者と帰省時間について相談して、寄宿舍と確認をとることができた舎生から帰省すること。

メールメイトを受信できていない舎生も2名いたので、メールメイトの内容を印刷して渡した。

23時17分 寄宿舍の携帯電話から保護者に一斉メールを送信するため内容（Table 1）を寄宿舍当番職員が寮務主任と確認をして一斉送信した。

Table 1 保護者に送信した一斉メール

先ほど、メールメイトで学校よりご連絡させていただきましたが、本校の臨時休校に伴い、寄宿舍生は明日、2月27日に帰省することになりました。
お手数ですが、このメールを受け取りましたら、必ず返信をお願いします。
お子様と帰省の時間の調整をお願いします。
明日朝、確認の連絡いたします。ご都合の悪い方は、遅くても構いませんので、今日中に寄宿舍へご連絡ください。寄宿舍

23時48分 寄宿舍指導員にメールにて周知した。翌日朝からの舎生の対応のため、宿直当番以外の勤務者は日勤への勤務変更の連絡を行った。

24時過ぎまでメールメイトが届いていない保護者や担任から問い合わせの電話があり、寮務主任・舎監で説明対応を行った。舎生も帰省の準備をしていたため、舎監・当番指導員は夜遅くまで各部屋の

舎生の様子を見て回った。

（2）舎生の様子

高等部生は期末試験対策期間中であった。メールメイトの受信時は、学習している舎生がほとんどだった。眠っている舎生は3名だった。高等部生は「明日のテストは？」など騒いで集まったりもしていた。

卒業舎生は寄宿舍で在舎生と過ごす夜が、急遽最後になってしまうため、消灯後も話をしていた。在舎生にメッセージを書いている高3女子舎生の姿もあった。多目的室のパソコンを使って帰省の時間を調べている舎生や、急な帰省に不安を口にする専攻科女子舎生と多くの舎生は夜中遅くまで帰省に向けての準備をしていた。

（3）2月27日（休校当日）

寄宿舍の携帯電話には保護者より、昨夜のメールの返信が朝早くから届き、その多くが帰省の手段についての相談だった。提出された帰省届をもとに、出勤してきた寄宿舍指導員とともに分担して保護者にメール・電話で連絡をとった。到着時間、帰省方法を確認し、帰省一覧表に記入することで舎生の動向を把握できるようにした。

早朝の6時15分に保護者が車で迎えに来たのを皮切りに、保護者と連絡確認のとれた舎生から帰省し始めた。

急な帰省だったため、帰省の切符の購入について、寄宿舍指導員が駅まで一緒に行き案内・購入の補助をすることも考えていたが、ほとんど家庭で対応してもらえた。中には、いつもと違う手段で帰省することになった数名の舎生から、航空券の購入などの相談があり、寄宿舍指導員と一緒に予約などの手配を行った。体調を崩している舎生もいなかったため、迎えの要請や見送りもなく、42名が午前中に寄宿舍を出舎することができた。

出舎後に空港までの交通手段に不慣れな専攻科女子舎生から寄宿舍にメールがあった。前夜帰省することに不安気な様子だったので、すぐ担当指導員が駅に向かい一緒に空港まで同行した。当日のうちに到着の連絡も受け、舎生全員の帰省が完了した。

Table 2 2009 年度新型インフルエンザ対応マニュアル

休校の場合 ① 休校の連絡を受ける(=閉舎) ② 職員へ閉舎について緊急メール 緊急メールの対応、メールの受信、出校できる時間の返信 ③ 保護者に閉舎について一斉メール ・休校に伴う閉舎について・メールの受信、帰省受け入れ時間、連絡先の返信要請 ④ 食堂に連絡 ⑤ 帰省の確認 緊急メールの一覧表(返信受信、舎からの確認事項、連絡者氏名) 保護者からの返信に伴い、保護者と直接連絡(舎からの確認) ・何時以降に帰省させるか等確認 保護者との確認を舎生に伝え、帰省準備を促す。(帰省日、保険証は帰省挨拶時に渡す) ⑥ 帰省 帰省準備が整った舎生から帰省 到着予定時刻を舎生から保護者に連絡させる。(到着の確認一覧表記入、帰省日、保険証の返却、到着予定時刻の確認) ⑦ 到着確認
--

3 開舎に向けて

6月1日の開舎に向けて、以下のことを踏まえて検討を重ねた。

①物品の準備、検討

消毒液、ペーパータオル、ゴミ箱の購入

②休校中の配信

寄宿舍でよく使う手話の動画配信

③日課 点呼の方法、下校後のマスク・消毒

④開舎日の動き 舎生の対応、居室移動

⑤食事 食事の配膳方法、消毒作業

⑥入浴

入浴グループの特定、入浴時間や消毒作業の方法

⑦舎生会活動

活動内容の検討、役員への働きかけ

⑧行事

大掃除、防犯防災(避難訓練・防犯防災デー)

余暇活動

⑨健康管理

体調不調者が出た場合の対応

(1) 物品の準備について

開舎して寄宿舍生活を再開するにあたり、感染防止対策に必要な物品については、「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル」を参考に寄宿舍職員間で検討した。

開舎に向けて、消耗品の備品在庫を確認するとともに、消毒薬やペーパータオルなど必要と思われる消耗品は購入数の制限もあったので、職員で手分けして確保に努めた。舎費で購入したものはTable 3の通りである。

トイレは、手洗い後にハンドドライを使用していたが、感染防止対策のため使用禁止としてペーパータオル、消毒薬、蓋つきゴミ箱を新たに置いた。

ペーパータオルについては、衛生面も考えてなるべくロール式ではないものを準備するようにし、トイレや食堂の消毒作業のために置くことにした。

また感染防止対策として、マスクやペーパータオルを破棄するためにビニール袋や蓋つきゴミ箱を、20個を新たに購入、玄関・食堂・静養室・洗面洗濯室・トイレに設置した。

マスクは、入手が困難な状況が続いていた。舎生の保護者からも、準備をして持たせるのが難しいという声があったため、舎費で一人22枚配布できるように購入準備を進め、開舎後に舎生に配布した。

Table 3 舎費で購入したもの

- ・マスク
- ・ハンドソープ
- ・ハンドソープ詰め替え
- ・除菌用ウェットティッシュ
- ・手指等消毒薬
- ・アルコール
- ・アルコール小分け容器
- ・次亜塩素酸ナトリウム
- ・ペーパータオル
- ・ダスター
- ・消毒用雑巾入れファスナー付きビニール袋
- ・使い捨てエプロン
- ・ビニール手袋
- ・ビニール靴袋
- ・ビニールシート
- ・マスク捨て用ビニール袋

感染者が出てしまった場合も想定して、学校からもレインコート・フェイスシールド・マウスシールド・靴袋・ビニール手袋・ペーパータオル・アルコール消毒液・ビニールシート・蓋つきごみ箱（職員室用）他など購入してもらった。

（２）アルコール消毒について

アルコール消毒液は、食堂委託業者を通して業者を紹介してもらい、学校を通じて確保することができた。玄関、渡り廊下をはじめ、共用で接触するものの多いトイレや多目的室に設置し、また職員もこまめに消毒できるように携帯することにした。

アルコール消毒の設置場所については以下の通りである。

玄関	アルコール消毒液
渡り廊下	スマホ消毒のための除菌ペーパー
トイレ	洗面ボールにアルコールジェル
多目的室	共有パソコンの前にアルコール消毒液 多目的室テーブルにアルコールジェル 多目的室じゅうたん用除菌スプレー
職員室	受話器の前にアルコール消毒液

（３）休校中の配信について

学校では、休校している間に課題などをイメージに上げて学習の確保をしていることを受けて、寄宿舎でも手話の動画を配信してはどうかと考えた。

寄宿舎では例年、一般校から入舎してくる舎生が数人いることにより円滑にコミュニケーションが取れるように平成15年度より1学期の前半を中心に手話教室を開いている。6月の開舎までに各自が手話を学べる環境を提供することで、開舎後もコミュニケーションを少しでも円滑に取れるようにと寄宿舎でよく使う手話の動画を作成した。(Fig. 2)



Fig. 2 「寄宿舎」の手話

4 開舎してから

開舎するにあたって、日課の変更も行なった。新しい生活様式を取り入れるのに、今までの日課では難しい面もあった。開舎し、実際に行ったことを順次に報告する。

（１）点呼方法の変更

今までは朝の点呼を男子女子寮2階の多目的室で行い、寮長が点呼を取っていた。点呼に起きてこない舎生は当番が起こしにいく形をとっていた。夜はラウンジにて男子女子寮ともに集まって点呼を行ない、緊急のときのために当日の舎監の顔を舎生に紹介していた。

90 新型コロナウイルス感染症対策における寄宿舎の対応について

① 6月1日から18日までは、皆で集まることを避けるために、朝・夜の点呼共に各階のフロアごとに行い、部屋の前に出てきもらうことで指導員が舎生の体調を確認できるようにした。

連絡事項は必ず通る目に入りやすい場所の1階の男女子寮入り口の渡り廊下にホワイトボードを置き、掲示したり記入したりして舎生に周知できるようにした。舎監の紹介も顔写真を撮って掲示した。

② 6月19日から

夜の点呼の方法を、フロアごとではなく集まって寮

長が点呼をとる方法に変えた。密集を避けるために男子はラウンジ、女子は食堂で行うことで、できる限り通常に近い生活と舎生が少しでもお互いに顔を合わせられるように配慮した。男子の点呼が終わってから女子がラウンジを通れるように時間差を作ることで、ラウンジに人が集まらないようにした。

③ 12月から

曜日ごとにラウンジと食堂と、男子寮女子寮交互に場所を入れ替えて行っている。

Table 4 日課表 (2019年度と変わった点)

	平 日	休 日
起 床	7:15	— — —
点 呼	7:25 (2階多目的室)	— — —
風呂掃除	朝の点呼終了後	午 前
朝 食	7:30～8:00	8:00～9:00
登 校	8:20	— — —
昼 食	学校で弁当	12:00～13:00
外 出	下校後～門限	朝食後～門限
入 浴	18:00～20:30、 18:00～21:00 (休日の前日)	
夕 食	17:45～18:55	
門限・点呼	19:00	
掃 除	夜の点呼終了後	
自主活動	高・専 19:00～23:00	
	学習時間 20:30～22:30、 21:00～23:00(休日の前日)	
消 灯	23:00 (高・専)	

2019 年度の日課

	平 日	休 日
起 床	7:15	— — —
点 呼	7:25 (各部屋の前で)	— — —
風呂掃除	朝の点呼終了後	午 前
朝 食	7:30～8:15	8:00～9:00
登 校	8:25	— — —
昼 食	学校で弁当	12:00～13:00
外 出	下校後～門限	朝食後～門限
入 浴	16:30～20:30	
夕 食	17:45～18:55	
門限・点呼	19:00 (ラウンジと食堂を男女子寮相互に)	
掃 除	夜の点呼終了後	
自主活動	高・専 19:00～23:00	
	学習時間 20:30～22:30、 21:00～23:00(休日の前日)	
	自室消毒 20:30	
消 灯	23:00 (高・専)	

2020 年度の日課

(網線が変更したところ)

(2) 下校後のマスク、消毒

外からウイルスを持ち込まないためにも帰舎してからの流れを作ること、感染防止対策を徹底させることにした。

学校から帰舎した際

- ① 玄関に入る
- ② マスク捨て用のビニール袋をとる
- ③ マスクを外してビニール袋に入れる
- ④ マスク専用の足踏み型ゴミ箱に袋に入ったマスクを捨てる
- ⑤ アルコールで手を消毒する
- ⑥ 下駄箱へ

自室に戻る

- ⑦自分のデスクがある窓を5センチほど開けて換気を始める
- ⑧自室でもルームメイトのエリアに入らないように注意する



Fig. 3 下校の様子

(3) 開舎日の動き

① 当日の動き、舎生への対応

13時から開舎開始とした。家で検温をし、寄宿舎に着いた時にも職員室で検温を行うことで体調を把握できるようにした。

遠方から飛行機や新幹線を利用して帰舎するため、寄宿舎に着いた人からシャワーを使うように対応した。

今までの生活と大きく変わるため、舎生の動線のところどころに掲示物を作成し動きが分かるように

工夫をした。(Fig. 4)

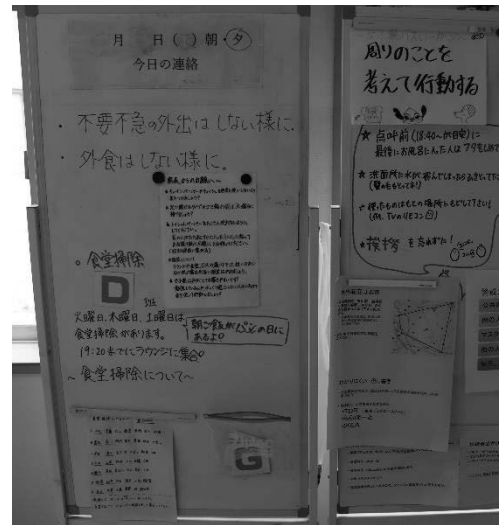


Fig. 4 渡り廊下の掲示板

19時には食堂で点呼を行った。椅子のみを並べて距離をとって座れるように配慮をした上で、寮務主任より新しい生活様式を踏まえた寄宿舎生活での流れや気をつけてほしいことを説明した。これまでとまったく異なる生活様式に戸惑いながらも、舎生は真剣に聞いていた。

専門家会議が提唱する 「長丁場に備える新しい生活様式」

感染防止の3つの基本

- ① 身体的距離の確保
- ② マスクの着用
- ③ 手洗い

人との間隔はできるだけ2m（最低1m）空ける
遊びに行くなら屋内より屋外を選ぶ
会話をする際は可能な限り真正面を避ける
外出時、屋内にいるときや会話をするときは症状がなくてもマスクを着用
服に付いたらまず手や顔を洗う できるだけすぐに着替える。シャワーを浴びる
手洗いは30秒程度かけて水と石けんで丁寧に洗う（手指消毒薬の使用も可）

日常生活

- まめに手洗い 手指消毒
- せきエチケットの徹底
- こまめに換気
- 身体的距離の確保
- 3密の回避（密集 密接 密閉）
- 毎朝の体温測定 健康チェック
- 発熱またはかぜの症状がある場合は無理せず自宅療養

「新しい生活様式」@寄宿舎 1日の流れ

1. 学校から帰舎
2. 自室に戻る
3. 食事
4. 入浴
5. 点呼
6. 清掃
7. 自室消毒
8. 学習時間
9. 就寝
10. 朝点呼
11. トイレ

② 居室移動について

2月27日に帰省したままの状態になっているため、帰舎後から居室移動に向けて自室の片付けを行なった。

配室発表は、従来ならばラウンジ1か所で掲示の発表をしていたが、開舎日に帰舎したらすぐに舎生が確認できるように、発表時間を14時とした。掲示する場所も1か所ではなく、ラウンジ他各階の多目的室と6か所に掲示した。

居室移動の際の注意事項

配室表は

6/1 14時に貼り出します 傘靴の移動を行いましょう

ラウンジ集合

男子18時50分 女子19時点呼後

各多目的室集合

男子19時点呼後 女子18時50分

その後部屋の移動を始めてください

多目的室や玄関の靴箱の移動については、時間差で行うことにした。

居室移動の作業中は廊下の窓を開けて換気をしながら移動をするように配慮をした。

居室移動後は、寄宿舍指導員が舎室のドアノブなどのアルコール消毒を行った。

(4) 食事について

開舎に向けて、5月に契約をしている栄屋食品株式会社マネージャーと栄養士を交えて打ち合わせを行い、感染予防のために協力してくださることになった。

① 6月1日から16日まで

朝食はコンビニ弁当のような使い捨ての容器を購入、個包装の割りばしをつけるというお弁当形式をとった。弁当提供の間は汁物や麺類、カレーライスの提供は行わないこととした。

1階の渡り廊下のところに食堂の方にお弁当を運んでもらい、食事時間に各自がお弁当を取りにきて、舎室でそれぞれが食べるようにした。(Fig. 5)



Fig. 5 夕食を取りに来る様子

夕食は寄宿舍にあるお弁当箱（お祝い御膳用）を使用した。主菜の体積が大きいものはたこ焼きや焼きそば用の容器を代用し、祝い膳には副菜をいれることとした。

今までの食事の際に使用していた名札を活用し、お弁当を取りにきたかどうかの確認を行なった。終わった後は名札の消毒も行なうようにした。

② 6月17日から6月30日まで

食堂で食事をとれるように、食堂の席を1テーブル1人の25席を設置した。

一方向喫食になるように席を作り、男女別に2グループにした。相互に食事を取るのに時間を要するため、朝食時間を平日は8時15分までにした。

食堂に入ってから動線を床に養生テープを使ってマーキングをすることで、目で見て分かるようにした。

食後の消毒作業については、男子と女子が入れ替わる5分間で、職員が全席のテーブル、椅子の消毒作業を行なった。

【食事時間】

平日

	男子	女子	
朝食	7:30～7:50	7:55～8:15	5分間消毒
昼食	学校でお弁当	学校でお弁当	
夕食	17:40～18:15	18:20～18:50	5分間消毒

休日

	男 子	女 子	
朝食	8:00～8:25	8:35～9:00	10 分間消毒
昼食	12:00～12:25	12:35～13:00	10 分間消毒
夕食	17:40～18:15	18:20～18:50	5 分間消毒

③ 7月1日から12月現在

25席の一方喫食の形で時間内にそれぞれ食堂に行き、空いている席があれば食べてよいことにした。

平日の朝食時間は引き続き8時15分までとし、25席各テーブルに消毒セット（アルコールスプレー、ペーパータオル）を設置し、食べ終わった後は各自、テーブルと椅子の消毒を行うことにした。

（5）消毒作業

① 全館消毒（公共の場所）

1日1回、舎生登校後から下校までの間に、消毒を行っている。病人等の対応・登校後の各室点検と同時にできるよう、この時間帯に行うこととした。休日は、朝食後に行っている。消毒は、アルコールをダスターでふき取る形とした。

消毒箇所は以下の通りである。

廊下	窓（開閉時に手がかかる部分、鍵）、 カウンター下の取っ手、掃除用具入れの取っ手
脱衣室	電気スイッチ、棚、脱衣かご、蛇口レバー、洗面ボウル周辺、扉の取っ手
舎室ドア	ドアノブ
トイレ	個室扉の取っ手、水道レバー、水栓レバー
舎監室・指導員宿直室	ドアノブ、電気スイッチ、テーブル、ベッド
洗面洗濯室	洗濯機・乾燥機の取っ手、蛇口レバー、洗面ボウル周辺
多目的室	電気スイッチ、扉の取っ手、食器棚の取っ手、リモコン、キーボード、IHヒーター、蛇口のレバー

② 舎室消毒

各自、1日1回20時30分に行っている。消毒液は、次亜塩素酸ナトリウムを使用した。長期的に消毒を続ける場合を考え価格的にも続けていけるものと考えたのである。

ダスターに次亜塩素酸ナトリウムをしみこませたものでふき、水にぬらした布巾で水拭きをする形とした。

消毒箇所は、以下の通りである。

- ・ドアノブ
- ・インターホンのボタン
- ・その他各自気になる場所

日中、舎生のいない時間に消毒液付きのダスター水拭き用布巾を用意し、乾燥防止のため、部屋ごとにファスナー付きビニール袋に入れて分けておく作業を行っている。

12月からは、ファスナー付きビニール袋を使い回すことの衛生面や作業効率の面を考慮して、ファスナー付きビニール袋から大きなタッパーに、階ごとにダスターと布巾を人数分入れる形に変更した。

（6）入浴

浴室は寄宿舍内でも密になりやすい場所なので、入浴方法について検討を行なった。

① 人数の限定と時間を分けることにし、入浴を三部制とした。

各入浴時間帯後には指導員が消毒作業を行う。

1. 16時30分～17時25分
2. 17時30分～18時45分
3. 19時30分～20時30分

【入浴グループ】

	男子寮	女子寮
A グループ	6名	9名
B グループ	8名	7名
C グループ	7名	8名

19時半から予定している行事（新入舎生オリエンテーション、防災オリエンテーション、避難訓練等）がある場合は、3の時間帯のグループは20時半から21時半までに変更することとした。

② 工夫したこと

- ・入浴時間はそれぞれのグループが公平になるようにローテーションをする。
 - ・グループ分け及びグループの入浴時間はそれぞれお風呂場の入口と1階廊下のホワイトボードに舎生に分かるように掲示する。
 - ・朝の見回りの時に、当番の指導員がグループのローテーションを動かす。
- （毎日の時間とグループは行事等の舎生の活動に合わせてあらかじめ何時にどのグループが入浴するか一覧表を作成し職員室に掲示する）
- ・お湯を入れる時間は15時45分、止める時間は16時25分でアラームをセットする。

11月からはメンバーの固定を解除した。男子寮は5名、女子寮は7名までと一度に入浴する人数を制限し、速やかに回転できるように協力してもらっている。時間ごとの消毒作業は引き続き、指導員が行っている。また、食堂で25席を設け交代で食事を取ることに変更し、夕食の時間に重なってしまう2の入浴時間帯を18時55分までとした。(Fig. 6)

空室 浴室	
時間	グループ・メンバー
16:30 5	※入浴は7人以上にならないように密を避けてお互いに協力して入浴して下さい
17:25	
5分間	消毒
17:30 5	
18:55	
5分間	消毒
19:30 5	
20:30	
20:30 5	
21:30	△入れません
注意！消毒時間、男女別消毒時間、お風呂の入り方	

Fig. 6 浴室貼り紙

（7）舎生会活動

寄宿舎生徒会（略称：舎生会）活動では今年度4名の役員体制（会長・会計・書記・行事係）で構成し、舎生会の中心となって活動している。舎生会活動の意義は、行事などを通して準備や話し合いを重ねることで達成感を味わい、自信を持つことにあると考えている。

例年はTable 5のように活動を行っているが、今年度は新型コロナウイルス感染対策のため、舎生全員が集まって行う行事や活動が難しくなった。行事の中止や活動が制限される中で、顧問間でも検討を重ねた。

Table 5 舎生会年間活動内容

4月	新入舎生歓迎会 …今年度中止 新入舎生歓迎レクリエーション …今年度中止 舎生会総会（舎生会費予算案報告）
6月	寮祭 …今年度中止
9月	文化祭展示準備
10月	舎生会総会（舎生会費中間報告）
11月	文化祭展示
12月	クリスマス会
1月	ともしび文集製本
3月	舎生会総会（舎生会費決算報告） ともしび文集発行 送別会 ※ともしび新聞発行（各学期に2回発行） ※定例役員会は役毎月月末（8月除く）に実施する（役員、寮長で行う）

① 行事

a. 舎生会総会

前年度、決算報告ができないまま緊急帰省となったので、開舎日に紙面で報告をした。異議がある場合は各自記入して質問等できるようにした。

また、今年度の舎生会会費予算案、中間報告については、食堂にて、男女別に時間差で行い、席の間隔を空けて距離を取るよう工夫した。

b. 文化祭寄宿舍展

4つのグループ（沿革、部屋紹介、1日の生活、装飾）を2グループずつ、日にちを変えて係活動を行なった。

例年寄宿舍を卒業した先輩方の中から2人に執筆を依頼している「寄宿舍に対する思い」を、今年度は文化祭の外部公開を行わないこともあり、前年度の退舎生に連絡をし、ほぼ全員に書いてもらった。

前年度の送別会を休校のため行うことができなかったため、退舎生にとっても思い出や後輩へ伝えたいことを文化祭の展示を通して伝えることができ、よかったという声が多かった。

c. クリスマス会

今までは食事をグループに分かれて料理を囲む会食形式をとっていたが、今年度は通常の食事の形にし、クリスマス会向けの特別メニューを食堂の方に提供いただいた。余興も係の舎生が密集を避けた形でできるようにゲームを工夫していた。

なお、クリスマス会の最中は全員がフェイスシールドとマスクを着用した。終わった後もアルコール消毒をするよう役員も率先して舎生皆に声かけをしていた。

② 役員会

a. ともしび新聞発行

例年は年間5回発行しているとしび新聞を今年度は7回に増やした。

新聞の内容は役員会で決めているが、近年行事のことを記事に書いていることが多かったが、行事が少ない今年度は役員がその季節にあったものや寄宿舍に関する歴史やコラム、盲学校勤務の経験を持つ指導員に盲学校の様子をインタビューする等、それぞれ自分で調べた内容を掲載する等工夫していた。

b. 「夢をあきらめないで」の動画作成

平成9年に、寄宿舍のテーマソング「夢をあきらめないで」が誕生した。これまでは、毎週金曜日の夜の点呼後、食堂にて全員で練習を行っていた。

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で練習ができな

くなったが、役員から、長年続いている伝統を大切にしていきたい、新入舎生にもテーマソングを覚えてほしいという声上がり、テーマソングの動画を作成した。作成した動画は、寄宿舍のラウンジや文化祭で流した。

引き続き、テーマソングを継承していくために新入舎生と在舎生と一緒に練習できるような方法を検討しているところである。

③ 定例役員会

生活の様子を振り返り1ヶ月の反省や生活をよりよくするためにどのようにしていけばいいのか話し合い活動を中心に行っている。

今年度は、役員や寮長から特に新型コロナウイルス対策を意識した発言が多く見られ、関連の掲示物も進んで作成した。(Fig. 7)

【定例役員会で出た意見】

- ・手洗い場にあるペーパータオルの減りを考えて節約した方がいい
- ・点呼など集まる時や、自室から出る時はマスクを必ずつけてほしい
- ・食事中はおしゃべりしないように気をつける
- ・ソーシャルディスタンスをしっかりとるように
- ・手洗いをしっかりしよう
- ・食堂を出るときも手を洗った方がいい

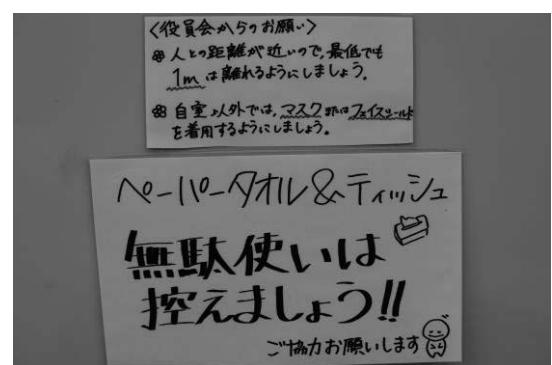


Fig. 7 コロナ関連の掲示物（舎生会作成）

（8）行事

① 大掃除

大掃除は学期初めと学期末に行っている。

開舎した当初の大掃除は中止としたが、1学期末

の大掃除からは予定通りに実施した。

大掃除は場所によっては密になってしまうため、実施する際には、開始前の説明や掃除用具の運搬を含むすべての行程において密な状況を作り出さないように留意した。

例年では開始前の挨拶・説明を男女ともにラウンジで行っていたが、今年度は密集しない環境作りの観点から、広く間隔をあけることのできる食堂にて行った。挨拶・説明は、男女で10分間ほど時間差をつけ、入れ替わる形で行った。終了時の挨拶のための再集合は行わないこととした。

掃除開始時には、マスクやビニール手袋を配布し、いずれも着用を必須として、掃除終了後には速やかに捨てるように呼び掛けた。

実施時間は、例年の2時間から1時間に短縮して行った。また、時間短縮により行き届かない箇所が出ないように、1ヶ月に1回、日常掃除時間に気になる箇所を集中的に行うポイント掃除を利用して同様の場所を掃除し、作業の負担が大掃除当日のみに集中しないよう日頃から取り組んだ。

② 防犯防災

a. 避難訓練

寄宿舍では、災害から身を守るために年に5回「火災を想定した避難訓練」と「地震時の避難訓練」を相互に行っている。

従来の訓練内容では集団感染リスクが避けられなため、市川西消防署からの助言も踏まえて、感染防止対策を取り入れて訓練を実施した。

【変更点】

「火災を想定した避難訓練」

例年は、雨天時の避難場所をラウンジに変更していたが、密を避けるために避難場所を男子はラウンジ、女子は食堂にする。

「地震時の避難訓練」

例年は、全員食堂に集まって訓練を実施していたが、密を防ぐために男女別に時間差で実施した。

男女別で実施するため、非常機器を作動せずに、

パワーポイントを活用して避難を促す。

【訓練前と訓練後の感染対策について】

避難訓練前

- ・各自検温し、熱がある又は風邪症状等のある人は訓練に参加しない。
- ・訓練参加者は全員マスクを着用して参加する。
- ・職員及び寮長は、点呼や人数報告等があるためフェイスシールドも着用する。
- ・避難場所へ移動する際、相手と距離をとって歩くように促す。また、避難場所での整列も相手と距離をとるように促す。

避難訓練後

- ・従来は、食堂にて職員が訓練の様子から気づいたことや伝えたいことを舎生に話していたが、掲示物を作成して舎生に伝達する。
- ・訓練後舎内へ戻る時に、上履きの消毒を行う。
- ・必ず手指の消毒・手洗い・うがいを行うように促していく。
- ・食堂のテーブルや椅子等、使用した物の消毒を行う。

b. 防犯防災デー

防犯防災の意識向上をねらいとして、年に一回行っている。これまで全員参加で講話形式又はディベート形式がメインだったが、今年度は災害時に役立つ知識の取得を目的とした体験型のワークショップを実施した。

密を防ぐために、男女別でそれぞれ別日に行った。また、当日は3つのグループに分かれて、小人数で体験できるようにした。

ワークショップは初めての試みであったが、舎生は意欲的に参加し、積極的に質問してくる様子が印象的だった。また、「身近な日用品も災害時に活用できると参考になった。」、「コンビニエンスストアよりガソリンスタンドの方が避難場所として安全だと初めて知った。」等の感想があり、このワークショップの体験を通して、より深く防災意識を高めることができたのではないかと考える。

- ・懐中電灯を使っのランタン体験
- ・新聞紙の食器作り
- ・ロウソク用の入れ物作り (Fig. 8)
- ・簡易トイレの組み立て (Fig. 9)
- ・担架の搬送体験
- ・アルミブランケットの体験
- ・炊飯袋や非常食の紹介
- ・防災にまつわる〇×クイズ



Fig. 8 ロウソク用入れ物作りの様子



Fig. 9 簡易トイレの組み立ての様子

③ 余暇活動

余暇活動のねらいは、寄宿舎生活の中で季節感を出すことで時季を感じ取り、生活に潤いを持たせること、お月見団子作りやお菓子作りなどを通して自分の時間を楽しく過ごすことにある。

今年度は新型コロナウイルス感染症の流行により、余暇活動にも制限がかかってしまったが、その中でできることを模索しながら行なった。

Table 8 余暇活動年間計画

4月	ちょこっとツアー …中止
5月	5月節句飾りつけ…中止
6月	映画会 …中止
9月	お月見だんご作り
10月	寄宿舎マーク撮影 書道
11月	映画会 お菓子
12月	クリスマスツリー飾りつけ イルミネーション点灯
1月	郷土料理
2月	豆まき
3月	雛人形飾り

a. ちょこっとツアー

例年は4月に、新入舎生を対象に学校付近のコンビニ、郵便局などこれから生活する場所を案内している。しかし、休校に伴い4月に実施できなかったため、6月に市川界限を紹介した手作りマップを新入舎生に配布した。休日に、先輩が後輩に店舗を教える姿がみられた。

b. お月見団子作り

例年は希望者を募ってお月見団子を玄関飾り用と食べるものの両方を作り、夜に舎生皆で食べていた。今年度は通常食事を提供してくれる食堂の方に相談をし、夕食のメニューに出していただくことにした。

玄関に飾る月見団子は紙粘土で代用し、秋の季節感を得られるように工夫した。

c. 寄宿舎マークの撮影

寄宿舎の中庭に、草を寄宿舎マークに見立てて作っている。そのマークを囲んで舎生全員で集合写真を撮影する活動を平成28年度から続けている。

今年度は密を避けるために、グループごとに撮影を行った。

d. 書道をやってみよう

初めての試みで一人でも楽しめる活動として、希望者を募ると、少人数であるが参加者があった。参加者は時間が経つのを忘れ、没頭している様子だった。

今後も機会を見て、一人でも楽しめる落ち着いた時間を提供したい。



Fig. 10 書道の様子

e. お菓子作り&クリスマスツリー飾り作り

例年お菓子作りを実施していたが、今年は手作りして一緒に食べることが出来ないため、クリスマスツリー飾り用のクッキー作りを企画した。(Fig.11)

クッキーを焼いた後にアイシングでデコレーションし、翌日にラッピングをしてツリーに飾るまでを行った。飾り用ではあるが、安全のためすべて食べられる材料で作ることにした。

新型コロナウイルス感染症が落ち着くまで、食べられるお菓子作りに代わるものを何か考えて行きたいと思っている。



Fig. 11 アイシングクッキーの飾り作り

f. クリスマスイルミネーション点灯式

舎生皆が輪になって簡単なランタン（スマホの懐中電灯機能と水入りカップ）を使い、ソーシャルデ

イスタンスに気を付けながらも共有時間を感じる事ができるよう配慮した。

g. 郷土料理

全国各地から集まっている利点を活かして舎生の出身地から内容を選び、保護者の協力をいただいて作り方を教えてもらっている。例年は希望者を募り、その出身地である舎生を中心に調理をして点呼時に皆で食べていたが、今年度は保護者からのレシピを食堂にお願いし、夕食のメニューとして提供してもらうという違った対応を試みる予定でいる。

h. その他

・誕生日ポスターの掲示

例年は食堂の掲示板に掲示し、皆にみてもらっていたが、開舎してしばらくの間は、各階の掲示板にそれぞれ誕生日ポスターを作った。廊下を歩く際、他の舎生の存在を感じるように工夫を凝らした。掲示をみた舎生が、おめでとうと声をかける場面もみられ、皆が目にとまる場所に掲示した意義はあったと感じる。11月からは通常通り食堂での掲示に戻している。

（8）健康管理

① 舎生の健康管理に対する意識付け

今回の新型コロナウイルス感染症の流行で、風邪、インフルエンザの見極めがつかないことが一番懸念される。特に寄宿舎という集団生活の中で、慎重に見ていかなければいけない。

毎年、冬のインフルエンザが流行る時期に合わせて、インフルエンザ予防として「手洗い」「うがい」「睡眠をしっかりとる」「栄養のあるものをとる」そして「免疫力をあげる」ということを夜の点呼などを通して注意喚起を行っていた。

手洗いの習慣を意識付けるために、食堂の手洗い場にも舎生の目にとまるようにカードなどを設置した。

今年度は新型コロナウイルス感染症の流行を受けて、さらに細かく「咳エチケット」「飛沫はどのぐらい飛ぶの?」「顔や鼻などを触らないように」といっ

たことも盛り込んで掲示するなどして周知した。

② PCR 検査を受けての対応

PCR の検査の結果は陰性だったが、金曜日に PCR 検査を受けた舎生の対応をはじめ、濃厚接触者は自室待機をするなどの対応や日課変更を行なった。中には受験を控えている舎生もあり、心配した保護者から連絡があった。

1) PCR 検査を受けた金曜日から月曜日までの様子

舎生が木曜日前日から喉の痛み、鼻水と風邪のような症状を訴えていた。金曜日登校する気持ちでいたが、まず病院にかかって風邪薬を処方してもらってから登校することにし、学校近くのクリニックにかかった。

(通院時 37.1℃ 36.9℃ 36.8℃)

あらかじめ喉の痛みと頭痛があることをクリニックに電話で伝え、一人で通院した。

その後、クリニックから、検査が必要とのことで別の病院に行くように寄宿舎に電話があった。

舎生の保護者に、PCR 検査を受けることを連絡し、病院に 11:45～12:00 の時間帯で PCR 検査の予約を取った。

病院には、指導員が付き添いで通院した。問診を受け、喉は赤くないということだったが、PCR 検査を受けることになった。2cc の唾液を採取して、結果は早くて土曜日の午前中、間に合わなければ月曜日に判明すると言われた。結果は寮務主任に連絡が行くこととなった。

医師からは「鼻水等の拭いたゴミは、他の人に触られないように捨てること」「食器は別が良い。捨てられる物が良い」「検査後 10 日程度は、1 日 2 回程度検温すること」との指示を受けた。

筑波大学のコロナ対策マニュアルに伴い、教務と養護教諭と寮務主任で相談、対応を行なった。

舎生には入浴も含めて水曜日以降の生活を振り返りながら一緒にいた舎生の名前を記入してもらった。名前が挙がった舎生は、担任等から自室待機するように伝えてもらうことにした。

・水曜日以降で該当者から 1 メートル以内の近距離にいた

・マスクが無い状態で 15 分以上一緒にいた

上記にあてはまる人は、濃厚接触者と該当し、自室待機とする。

食事や授業では 2m 確保している、点呼では全員マスクを着用していることから、該当する場面は就寝と入浴と考える。そのため、同室者は自室待機となる。

自室待機者は土曜、日曜日と自室待機して結果を待ったが、日曜日のうちに検査の結果の連絡がなかった。自室待機者には月曜日の登校時間を 8 時 15 分以降とし、保護者に本人の様子と結果の連絡がなかったことをメールした。

月曜日に舎生は陰性であることの連絡を病院より受けた。

2) 職員の動きや自室待機組の対応等について

a. 舎生の対応

できるだけ接触者を限定するため同じ人が対応するようにということで、勤務時間に応じて分担した。

通院～17 時…指導員 1 名

17 時以降…宿直指導員 1 名

各寮の見回りや他の舎生の対応…その他の指導員

b. 静養室の出入りについて

静養室に入る時は防護服や靴カバー等を使い、出る時はゴミ袋に入れて処分した。

相談室に、防護服・靴カバー・フェイスシールド・マスク・ビニール手袋・消毒用アルコールを設置した。

対応する時はフェイスシールドだけでなく、マスクも着用した。

他の舎生の動線と交わらないようにするため静養室前にパーテーションを置くことを考えていたが、他の舎生の不安を煽ることになるため、つけないことにした。

c. 食事

【金曜日の夕食】舎生、自室待機組…部屋に配膳（食器は他と違うものを使用し、食事後食器も含めて処分した）

【土曜日からの朝食・昼食】

自室待機組と他の舎生の食事の時間を分けた。

8 : 00 ~ 8 : 40…他の舎生
8 : 45 ~ 9 : 00…自室待機組
12 : 00 ~ 12 : 40…他の舎生
12 : 45 ~ 13 : 00…自室待機組

食事終了は、指導員で再度、使用後のテーブルの消毒、換気・食器の処分を行った。

d. 入浴

待機者6名を15時30分から一人ずつ10分間として、他の舎生の入浴開始時間を17時～とした。入浴後は指導員で消毒を行った。

e. 洗濯

自室待機組は、希望があれば指導員が洗濯する。

3) 舎生への周知について

土曜日に夜の点呼を用いて寮務主任から全体に説明を行った。舎生に現状をきちんと伝えることで、より留意し、落ち着いて生活してほしいと考えたためである。

4) 今回の対応を通して

幸い、舎生は陰性であったので安堵したものの、今回の動きを通して課題も出てきた。

寄宿舎では、体調不良者が出た時に隔離しておくための部屋も少なく、動線を考えてもどうしても完全な隔離は難しい。施設設備や人員などハード面には限界があるが、今回の対応を踏まえてより具体的にどう動くか、連絡を密にしながら対応していかなければいけないと感じた。

5 6月の開舎から現在でも続けていること

寄宿舎は集団生活なので、外出も含め、生活をする上で制約を設けている。自分だけ良ければいいというのではなく、「相手に感染させない」「自分も感染しない」ということを常に心がけるよう、舎生には伝えている。

(1) 外出範囲について

【外出範囲の決め方】

毎週木曜日の部会にて、社会状況や市川市の感染者などを参考にしながら週末等の外出範囲について検討を行っている。寄宿舎で生活する時間の長い舎生にとっては日用品などの買い物は必要不可欠であり、舎生の生活を踏まえた上で検討を行わなければならない。

そのために、以下の留意点を舎生一人ひとりが意識を持つこと、そして外出の際は危険なエリアに出ているという十分な警戒心を持つように寮務主任からも点呼を通して舎生全員に話をし、意識を高めるようにした。

- ・手をしっかり洗う
- ・公共場所でのマスクの着用
- ・入浴中は密にならない
- ・生徒同士で他室訪問しない
- ・食事中に横を向いて話をしない
- ・他の人とはマスクをしていても
1mの距離をとる
- ・換気をしっかり行う

【外出範囲の制限】

① 6月開舎から2週間

不要不急の外出禁止（学校～国府台駅まで）

② 6月20日～ 市川駅～松戸駅間

③ 7月～

東京での感染者数が増加してきたことを受け、国府台駅から矢切駅間の外出範囲に変更した。

④ 9月～ 矢切、市川、船橋間

東京や人混みが多そうなショッピングモールなどの場所には行かないようにした。

また、進路に関わることや必要な用事については事前に申請させて、許可制をとる形で対応した。

⑤ 12月～

全国的に感染者の増加や学期末の帰省日が近いことを考慮して外食をしないようにし、12月帰省日1週間前は国府台から矢切までの範囲に狭めた。

(2) 換気について

寒くなってくると舎生も換気をしようとする意識が薄くなってしまうことが懸念される。そこで、換気を行う時間をこちらで決めて舎生に周知した。

- ・登校する時に部屋のドアと窓（天気が良いとき）を開けてください
- ・夜は20時半の自室の消毒時、22時に5分程度空気を入れ替えるようにしましょう

廊下や多目的室などの共用で使う部屋については、5センチ程度窓を開け、適宜換気を行っている。

また、扇風機も換気の手立てのひとつとして、舎生全員に年中貸出をしている。

6 課題

寄宿舎は集団生活の場なので、共用に使う場所も多い上に、共に過ごす時間も長い。そのことから起こりうる課題として、3つ考えられる。

(1) 舎生同士のコミュニケーションと感染対策

聴覚障害の特性上、コミュニケーションをとる上で口型や表情は手話と同時に重要である。手話が分からない舎生も一生懸命手話を使うようになってはいるが、マスクがあることでコミュニケーション方法が阻害されてしまう。また表情も見えにくいため、必然的に人と人の距離も近くなってしまう。

そこから密を生み出さないように配慮しているが、当初は意識していても段々と慣れが生じて、少しだけならいいだろう、寄宿舎内なら大丈夫だろうといった気の緩みが、日々の生活の中で見られた。

一人ひとりの感染リスクへの意識が大切になってくるが、そのための緊張感の継続と舎生の制限され

た生活や、不安を煽らないよう、精神的な面での配慮とそのバランスが難しいところである。

(2) 「新しい生活様式」と行事や舎生会活動

今年度は感染防止の観点から寄宿舎行事に制限を設け、様々な活動を見送ることが多かった。特に1学期は行事や活動を通して舎生同士の交流を深める時期に、新入舎生は先輩舎生と関わる機会が少なく不安だっただろうと察する。

「新しい生活様式」を踏まえて、本来の寄宿舎生活の姿に戻れるように行事を含めた活動内容や活動方法についても検討していかなければならない。

(3) 感染者が出た場合の対応

感染者が出ないように注意を払っているが、それでもインフルエンザ同様に出的場合も想定できる。そこで職員自身も自らの感染防止に努めながら対応していくためにも、感染対策について正しい知識が必要と感じた。

7 終わりに

今回の新型コロナウイルス感染症の流行は、未曾有の事態で全国各地からの舎生を預かる寄宿舎としては、毎日舎生が体調を崩すことなく元気に過ごしてほしいという一心で取り組んできた。

舎生も感染対策に気をつけて過ごしてくれたことも大きい。学校や保健室との連携をはじめ、食堂の栄屋食品株式会社さんに食事の提供について計らいをいただくなど、多くの関係者の方々の協力があったここまでやってこられたことに感謝したい。

まだまだ先行きは見えない中で緊張は続くが、今後も寄宿舎職員で共通理解を図りながら気を引き締めてできる限り感染予防、対策をしていきたい。

〔参考資料〕

文部科学省(2020) 学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～「学校の新しい生活様式」～

筑波大学附属学校教育局(2020) 新型コロナウイルス感染症対策マニュアル